

国指定文化財(名勝)

懐徳館庭園

(旧加賀藩主前田氏本郷本邸庭園)



建築目線で見ると懐徳館庭園

ルネサンス様式の西洋館と数棟が連なる日本館のセット

ご存じのように、江戸時代、本郷キャンパスの大部分は加賀前田藩の上屋敷でした。明治4年に屋敷地が収公されて文部省用地となりましたが、旧上屋敷の南側の一画、赤門から南側の約1万3千坪は、前田家の敷地として残されました。明治32年、前田家15代当主・利嗣は、当地を本邸と定め、天皇の行幸を仰ぐことを強く願って邸宅の改築を決定しました。利嗣は翌年薨去しますが、第16代当主・利為が遺志を継いで建設に着手。明治35年に起工し、同38年12月に日本館が、同40年12月には西洋館が竣工しました。

日本館は海軍技師・北沢虎造、西洋館は同技師・渡辺譲の設計です。北沢は履歴が不詳ですが、渡辺は明治13年に工部大学校を卒業し、内閣臨時建築局技師、清水組技師長、海軍技師などを務めた明治、大正期を代表する建築家で、他の代表的な作品としては帝国ホテル(初代)などがあります。

もともと天皇の行幸を目的としたため、充実した建築が計画されました。西洋館は、正面車寄せが西に面し、ルネサンス様式のデザインでまとめられました。石造、銅板葺き、地下1階、地上2階、総面積延651坪余で、建築費は約19万5千円、装飾費は家具・食器を含んで約11万円。24点の西洋絵画も購入されました。いかに内装に力を注いだかがわかります。渡辺の設計した洋館のなかで最も上質な建築の一つであり、東京にあった華族・貴族・実業家の邸宅のなかでも第一級と認められます。

西洋館の東北にあった日本館は、玄関棟以下7棟ほどの和風建築が渡り廊下で連結された大規模な建築群でした。南側の2棟のうち、西洋館に近い1棟が行幸時に使用されたようで、その南庭に能舞台(北沢虎造設計)が臨時に建設されました(行幸後に撤去)。その奥小座敷が前田家の「藏品御覽所」、後室居室が「能楽展覧所」、後室書齋が「便殿」として使用され、庭園の滝は奥小座敷から正面に望めるようになっていました。

駒場の本学敷地との交換で本郷の前田邸が東大に

この前田家の敷地と邸宅が大学へ移管されるのは、関東大震災後の大正15年8月のこと。本郷前田邸の敷地と駒場・代々木の本学敷地との交換は、関東大震災後の本郷キャンパスの拡充を目的としたものでした(震災復興の際に新築された理学部2号館、医学部1号館は旧前田邸の敷地内)。同時に西洋館、日本館も大学に寄付されることが決まり、実際には駒場の前田家新邸宅の新築・移転を待つ昭和3年8月に交換が完了しました。

大学に移管された旧前田家邸宅は、震災復興などを急務とする大学側の経済的事情からしばらく放置されたようです。しかし文部省から旧前田邸を聖蹟に指定したいとの内示があり、昭和8年に再び前田家から補修費2万円の寄付を受け、昭和10年には完成披露されました。市村讚次郎・宇野哲人両博士によって「懐徳館」と命名されたのはこの時です。以後、懐徳館は本学内外の学賓を迎える建物として使用されることになりました。



東京大学 大学院
工学系研究科・教授

藤井 恵介

※執筆者の肩書きは2015年当時のものです。

造園日線で見ると懐徳館庭園

平庭、築山、池泉という三種の空間が構成する庭園

懐徳館庭園は前田侯爵家が明治43年に造営した庭園を継承しています。地割は、懐徳館の南側に広がる芝生による平庭、東側を占める築山、そして築山の滝（現在は枯れた状態）から流れ落ち西側の池に広がる池泉という三種の空間から構成されます。

まず注目したいのは、築山と池泉という日本庭園に伝統的にみられる要素です。現懐徳館の東側にあった日本館からみて左手（東）の奥に築山を設け、その頂から滝を北向きに落とし、滝下で流れを曲げて右手（西）の奥の池につながる構成が確認できます。築山形式の庭園のセオリー通りとあってよいデザインです。日本館の奥座敷は滝に正対する位置にあったことが文献から窺え、いわゆる座観式に滝を主景として楽しむことが想定されたようです。ここに本庭園の重要な景観軸があります。

しかし、大邸宅からの庭園への眺めはこれに留まらず多様でした。特に日本館の南西側にあった西洋館からは、前面に芝庭が広がり、その奥に流れと背後の築山が水平的に重なる景観が得られ、これは日本館の奥座敷からの池への視軸とほぼ直交する景観軸をなしています。加えて日本館、西洋館とも庭園に多方向に面し、2階に居室を、さらに西洋館は3階相当の塔屋を備え、各所からの立体的で多彩な景観が考慮されたとみられます。

饗応性・回遊性をもつ庭が重要な外交の場に

次の注目点は、邸宅前に回遊路とともに広がる芝庭で、そこには鑑賞だけでなく饗応の場としての役割もありました。江戸期の大名庭園の特徴である饗応性・回遊性と芝庭という新しい形態を融合させた点は、本庭園の際立つ価値の一つです。

作庭の直接の意図は華族たる前田家が天皇の行幸を迎えることでしたが、本庭園の社会的意味はこれにとどまらず、大正期には外交の舞台としても重要な役割を果たしました。大正5年にはロシア帝国の親善使節ジョルジュ・ミハイロビッチ大公が邸を訪問。大正7年には英国コンノート公、大正15年にはスウェーデン皇太子妃の訪問を受け、庭園で記念写真を残しています。華族の中でも武家出身としては最高位の爵位を授けられた前田家はまさに「皇室の藩屏」としての役割を担ったのです。

作庭を請け負った伊藤彦右衛門は、江戸城内御庭師として著名だった先代の二代目伊藤嘉市が彦右衛門を襲名したもので、千葉県佐倉市において旧佐倉藩主の堀田正倫邸の庭園を手掛けた庭師として知られます（明治23年）。土地条件を活かしながら伝統を踏まえつつも時代に応じた新しさを取り入れたバランスのとれた作庭が特徴だったとみられます。

以上をまとめると、懐徳館庭園は、明治期の首都において、華族に求められた公的な社交という重要な役割を果たす舞台となる庭園として、伝統的な池泉と築山に近代的な芝庭を融合させ、回遊型の利用、座観式の観賞という双方の体験を実現させた空間です。その特徴が今なお良好に遺されているのは大変価値のあることであり、適切な管理と活用が期待されます。



東京大学 大学院農学生命科学研究科・准教授

小野 良平

※執筆者の肩書きは2015年当時のものです。

「懐徳」は論語が由来

◎懐徳館の名は、「論語」の一節「君子懐徳、小人懐土、君子懐刑、小人懐恵」からつけられました。君子（立派な人）は徳を重んじるが、小人（取るに足らぬ人）は土地を重んじる、君子は法を重んじるが、小人は自らの利益を重んじるということです。なお、懐徳館の命名者の一人である東洋学の宇野哲人博士は、浩宮様、礼宮様の名付け親としても知られます。

彦右衛門の庭がロケ地に

◎二代目伊藤彦右衛門が手がけた堀田正倫邸の庭園は、現在「さくら庭園」として開放されています。2006年に建物が重要文化財に指定されたのに続き、庭園も国指定の名勝に。映画やドラマの撮影に使われることも多く、2010年には「侍戦隊シンケンジャー」（テレビ朝日）や「坂の上の雲」（NHK、2011年には「JIN-仁」（TBS）のロケ地になっています。

関東大震災では避難所に

◎関東大震災の際、邸と庭園は避難所となり延べ19000人に食糧等が提供されました。前田家は資産家としての社会的役割を果たしていたのです。

行啓時には手品も披露

◎昭憲皇太后の行啓時には奇術師・地天斎貞一が手品を披露。演目は「御儀式万歳帽子」「生花」「洋皿の曲芸」「西洋料理」「糸製造」の五つでした。

鶴の噴水と駒場の前田邸

◎当初の庭園には、漢詩人・山田新川が遺した灯笼のほか、銅でできた雌雄の鶴の噴水もありました。当時の洋風庭園で流行していたものようです。

◎本郷の西洋館はもうありませんが、敷地交換後にできた旧前田家本邸（洋館）の姿は、現在も目黒区立駒場公園で見学することができます（水・木・金・土・日・祝／入館料無料）。

金沢出身の2人が滝を担当

◎1940年に東京帝国大学庶務課が著した『懐徳館の由来』には、池泉の水の循環装置を託されたのが「工学博士 斯波忠三郎・工学士 島山一清」だったと記されています。前者は後の東京大学航空研究所長、後者は後の荏原製作所創設者。このお二人は、ともに石川県金沢市の出身でした。前田家ゆかりの庭園に関わったのは、いわば必然だったのかもしれない。

名人が奏でた薩摩琵琶

◎行幸、行啓、台臨のいずれでも薩摩琵琶を奏でた西幸吉は、西南戦争従軍後に上京し、森有礼に認められて音楽取調掛に任命された人でした。

皇太子には活動写真も

◎皇太子（後の大正天皇）台臨時には、能楽「鞍馬天狗」が演じられ、「印度コロソ風俗」「運動好の婦人」といった活動写真も映写されました。



発行元：東京大学 本部総務課

〒113-8654

東京都文京区本郷7丁目3番1号

発行日：平成28年3月

前田侯爵家から東京大学が受け継いだ迎賓場

国指定文化財(名勝)

懐徳館庭園

(旧加賀藩主前田氏本郷本邸庭園)

「名勝」とは？

名勝とは、文化財保護法第109条第1項に基づく国指定文化財の種類の一つです。文化財は有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群の6つに分かれ、このうち記念物に入るのが名勝（ほかに史跡、天然記念物があります）。『特別史跡名勝天然記念物及び史跡名勝天然記念物指定基準』では、「わが国のすぐれた国土美として欠くことのできないもの」と表現されています。文部科学大臣が指定した名勝の数はこれまでに398件（2016年3月1日現在）。東京大学の施設では、2012年9月19日に小石川植物園（御薬園跡及び養生所跡）が名勝・史跡に指定されています。



石橋上より見る流れと芝庭

懐徳館庭園の沿革

↓前田家第16代当主・利為侯は、父の遺志を継いで本郷邸を改築し、明治天皇の行幸を実現。1942年にボルネオ沖で戦死されました。出典：『華族画報』（1913年）



二六二年 (元和二年)	前田利常(3代)、本郷邸地を加賀藩下屋敷として幕府より給わる
二六七年 (明暦三年)	前田綱紀(5代)、本郷邸を加賀藩上屋敷とする
一八六八年 (明治元年)	明治天皇、前田邸内物見所に臨幸
一八六九年 (明治二年)	前田齊泰(13代)、本郷邸を返納後、内西南1万5千坪を明治政府より給される
一八七〇年 (明治三年)	明治天皇、前田邸内物見所に臨幸
一八七二年 (明治五年)	齊泰、根岸別邸に移る 恭敏(14代)も根岸別邸に移る
一八七四年 (明治七年)	前田利嗣(15代)侯、本郷邸に移る
一八七九年 (明治十二年)	明治天皇、前田邸に臨幸
一八八五年 (明治十八年)	前田利為(茂)、七日市藩前田家の5男として生誕
一八八九年 (明治二十三年)	利嗣侯、本郷邸の改築の議を決す
一九〇〇年 (明治三十三年)	利為、利嗣侯の養嗣子となる
一九〇〇年 (明治三十三年)	利嗣侯薨去(6月14日)
一九〇〇年 (明治三十三年)	前田利為侯(16代)が本邸改築の議を決す 起工
一九〇五年 (明治三十八年)	日本館竣工
一九〇七年 (明治四〇年)	西洋館竣工
一九〇八年 (明治四十一年)	造園工事に着手(1月28日) 竣工(5月)
一九一〇年 (明治四十三年)	明治天皇の行幸(7月8日)

出典：国際日本文化研究センター



↑参謀本部陸軍部測量局が作成した五千分一東京図測量原図(1883年)。邸の南には使用人の住居らしきものや畑があったことがわかります。



↑築造当初の前田侯爵邸西洋館。出典：『東京風景』小川一真出版部(1911年)



↑西洋館2階の広間。暖炉前飾りには美濃産霞石を用いていました。出典：『建築雑誌』第263号(1908年)

東京大学本郷キャンパスの南西端に広がる懐徳館庭園は、2015(平成27)年3月10日、国指定文化財(名勝)に指定されました。この庭園は、当地に本邸を構えた旧加賀藩主・前田侯爵家の庭園を東京大学が継承したものです。現在は東京大学にとって大切なお客様をもてなす迎賓の場として活用されています。



滝および流れ



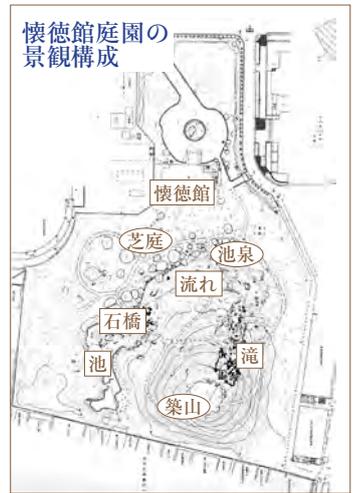
流れ～石橋～池



流れ中間部

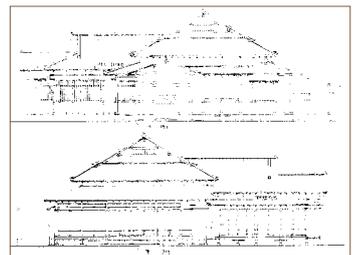


滝壺付近



懐徳館庭園の景観構成

↑懐徳館の南には芝庭と池泉と築山からなる庭園が広がります。現在の懐徳館の東側に木造の日本館、南西側に石造の西洋館がそれぞれありましたが、その時代と基本的な構成は変わっていません。



↑戦災で焼失した西洋館に代わり、1951年に旧和館別館の面影を再現するように新築されたのが現在の懐徳館(建坪70.5坪)。南西隅の客間が庭園を眺める主たる視点場です。

(明治四三年)	(明治四四年)	(明治四五年)	(明治四六年)	(明治四七年)	(大正五年)	(大正六年)	(大正七年)	(大正八年)	(昭和三年)	(昭和八年)	(昭和十三年)	(昭和十八年)	(昭和二十三年)	(昭和二十八年)	(昭和三十三年)	(昭和三十八年)	(昭和四十三年)	(昭和四十八年)	(平成九年)	(平成十七年)	(二〇一五年)	
行幸啓記念とし、金2万円を東京帝国大学に寄付(7月8日)	昭憲皇太后の行啓(7月10日)	皇太子殿下 同妃殿下台臨(7月13日)	庭園築山に臨幸記(碑)を建立	露国使節ジョルジュ・ミハイロピッチ大公台臨	英国使節コンノート公台臨	前田邸内敷地と農学部及び代々木演習林を交換	前田家から西洋館、日本館及び付随建物の寄付の申し出	スウェーデン国皇太子妃台臨(9月22日)	前田利為侯、ボルネオで戦死(陸軍大将)	西洋館を「懐徳館」と命名することを評議会に報告	前田家の寄付により、装飾、設備等の修理、同時に庭園の修築を実施(一九三五年に修理完了)	前田家の駒場移転後、建物等を受領。和館別館を現在の懐徳館位置に移築	東京大空襲により、懐徳館及び和館別館が焼失	総長(宿舎)大学迎賓館として再建。併せて庭園をなるべく在来のもので修復	庭園に外灯設備等取設	和室、厨房、女子便所、給排水設備等の改修及び建物周り、	国指定文化財(名勝)の指定を受ける					

↓西洋館2階にあった婦人客室。出典:『建築雑誌』第263号(1908年)



←築山に建つ臨幸記(碑)。「明治四十有三年私七月八日 皇上幸臣利為本郷第十日……」と記されています。

→総合研究資料館(現博物館)増築に伴う調査で発掘された西洋館の基礎は、現在の懐徳門脇にあり、アスファルトの防水層や床支持材の溝などが確認できます。写真下は博物館南側に残る昔の懐徳門です。

